

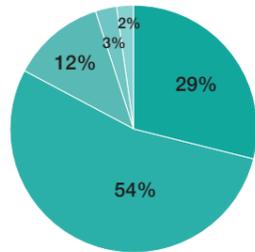
講評



企画の視点はたくさんありますが、面白い企画同士を組み合わせることでより多くの人を巻き込めるようなアイデアへとブラッシュアップさせることができるかと思います。誰かが発言したアイデアに便乗してみてください。ごはんをたくさん食べれること、ツイッターでつぶやいてみるといったことができたが、これらは今すぐはじめることができる第一歩です。会場には同じような考えをもった人もいるはずなので、仲間になって企画を拡大させていくのも一つの手になるかと思います。

アンケート結果

Q1. 今回のワークショップの感想を教えてください。



- 大変良かった
- 良かった
- 普通
- やや悪かった
- 悪かった
- 無回答

Q2. 一番印象に残っていたことは何ですか。

- 身近な方にできること、家族が一番の人が多かった。
- 最初の一步は1人で無理せず明日からできることでののだと気づきました。
- 様々な事例から自分ごとに繋がることは面白い。
- 情報を入れて発想を加えて提案する難しさ。

Q3. 改めて自身の「しあわせ」って何だと思われましたか？

- 身近なことがしあわせであること。簡単なことが幸せに繋がる気がしました。
- 高齢者とのつながりを考えていたが、自分の祖母と話すことが「幸せ」なんだと再認識しました。

Q4. 新たに気づいた高浜市の魅力や課題はありましたか？

- 高浜には「オシャレ」「カッコいい」が足りない。
- 見方を変えると田舎であることやコミュニティが小さいことで、その良さを知りたい人もいます。

Q5. その他感想をご自由にお書きください。

- 学生と30代の人が多い。→高齢者の意見が聞けなかった。時間配分と質がよかった。

宿題

- ① ワーク2で発表した「私が身近な人のためにできること」を、次回第4回目のワークショップまでにやって来てください。写真や動画におさめていただくと共有しやすいので、ぜひ記録に残してください。次回のワークではやってきた感想をみんなで話したいと思います。
- ② YOUTUBEにて「高齢者の暮らし 地域みんなで支えます～地域包括ケアシステムの構築～」(<https://youtu.be/QYv2hVRXYOK>)を見ててください。今後のワークを具体的に考えるうえで参考になる映像です。

きっと仲間が見つかる

プロジェクト紹介カード



これから高浜市をよりよくしていくには、アイデアを考える人やプレーヤー、活動に興味をもってくださるようなたくさんの仲間を増やしていく必要があります。プロジェクト紹介カードを使って、ご自身がワークショップで楽しく感じることに共感を得てくれる人を見つけ、ワークショップ参加してくれる人を招待してあげてください。誰かを招待して来てくれた方には、何かプレゼントがあるかもしれません。

T-LINE って？

ワークショップには「T-LINE」と呼ばれる市職員が入っています。ヒアリングやワークショップのファシリテーション技術を習得する研修を受けてきました。行政と市民、市民同士をLINEのようにつなぐ役割を担っているという思いが込められています。

studio-L

studio-L (スタジオエル) は、代表の山崎亮が2005年に設立。地域の課題を地域に住むひとたちが解決するコミュニティデザインに携わる。これまでに、いえしま地域まちづくり、海士町総合復興計画など、まちづくりのワークショップや住民参画の総合計画づくりなどに携わっている。 <http://www.studio-l.org>

〈問合せ先〉高浜市役所総合政策グループ

〔住所〕〒444-1398 高浜市青木町四丁目1番地2 [電話] 0566-52-1111 (内線339) [E-mail] seisaku@city.takahama.lg.jp

高浜市で「何が一番楽しいこと」ははじめませんか？

高浜市しあわせづくり計画
ワークショップ

TAKAHAMA HAPPY LETTER
vol.3
2015.10.25.Sun



アイデアを いろんな角度から考えました

第3回目となるワークショップを開催しました。これまでのワークは、自分たちが持っている知識をベースになるべく多くの、アイデア出すスタイルでしたが、今回は、レクチャーやテーブルワークを通じて、地域課題を楽しみながら解決している世界各地・日本全国の事例をインプットすることを中心に進めました。先進的な事例をインプットすることで、今までになかった発想、角度からものごとを考えられるようになる練習をしました。

第2回ワークショップの振り返り

レクチャー「身近にある福祉的なこと」では、日本が今おかれている福祉の現状と、現状の課題を楽しみながら解決している4つの事例を学びました。テーブルワークでは、自分たちの身近にある困りごとに対してできることはどんなことがあるのかといったことをシートを使いながらグループで考えました。

- [日時]
10月25日(日) 13:30~16:00
- [場所]
いきいき広場
- [プログラム]
- ・開会のあいさつ
 - ・第2回ワークショップの振り返り
 - ・ブレイクタイム
 - ・おもしろワンシーゲーム
 - ・レクチャー
 - ・いろいろな角度から見ること
 - ・テーブルワーク
 - ・自分ができることを
 - ・もっと面白くて必要とされるものに
 - ・発表
 - ・講評
 - ・閉会のあいさつ



第2回アンケートでご質問がありましたのでお答えします



地域福祉計画とワークショップの関係

ワークショップでは、地域の課題に対して、市民ができることを実際にやってみようとして進めていますが、課題の中には行政が考えていく必要があることも存在します。ワークショップであがった課題を委員会で検討するようにしているので、地域福祉計画とワークショップが相互に繋がる仕組みになっています。ワークショップではこれまで通り楽しんでやっていただければと思います。

ブレイクタイム

おもしろワンシーンゲーム

写真に写っている情報を読み取って、ふたりの会話や、ワンシーンを面白くするタイトルを考えるゲームをしました。写真に写っている二人の容姿や大きな携帯、後ろに写っているホワイトボードに書かれている文字を見る人と、人によって注目するポイントは様々にあることがわかりました。この後のレクチャーでは日本全国の事例を紹介しますが、事例の中には、楽しさ、面白さ、かっこよさなどたくさんの要素が含まれています。そういったことを読み取っていただければと思います。



レクチャー

いろいろな角度から見ること



アメリカの広告業界に務めるジェームス・W・ヤングさんは、「アイデアとは既存の要素の新しい組み合わせ以外の何ものでもない」といっています。情報の引き出しをつくるには、たくさんの事例を知る必要があります。難しい課題を解決するためには、いかにアンテナを高くして吸収できるかによります。そして吸収したことをストックするだけでなく、ワークショップの場や仕事場、学校でアウトプットする必要があります。インプットとアウトプットを循環されることでアイデアの可能性を広げることにつながります。また、同じくアメリカの広告業界では「オズボーンのチェックリスト」というものがあります。上手くできるとはどういった行為なのかを9つ(転用する・応用する・変更する・拡大する・縮小する・代用する・置換する・逆転する・結合する)に分類して考える手法です。これらを踏まえた事例をいくつか紹介します。

転用する BOOK FOREST

ドイツ・ベルリンで、森で捨てられるような木を加工してまちの道路に図書館をつくりました。新しい使いみちを考えるひとつのアイデアといえます。



応用する とくいの銀行

茨城県取手市で、自分が得意なことを銀行のように預けて、求めている人が来れば提供するという、銀行のような仕組みでマッチングする取り組み。



変更する 森の図書館

図書館では飲食が禁止という意識になりますが、ビールが飲めたり、音楽が流れたりするだけで、素敵な空間になり、人が立ち寄れる場所になります。



拡大する 隣人祭り

フランスで、孤独死を考えると隣人が寄り合いパーティーをすることから始まった小さな取り組みが、今では約20カ国800万人規模に拡大しています。



縮小する Museum

芸術家の方が、大きな規模で展示するのに困り、自分ができる小さな規模で展示をはじめると、できることが増えたという事例です。



代用する PARK(ing)Day

普段は駐車場として使われている空間を、一日だけ公園やフリマとして使えるようにすることでにぎわいを生む取り組みです。



置換する まちフェス

地元のおばあちゃんと高校生や大学生が技術交換という形でまちフェスを開催しました。



逆転する リバースグラフィティ

もとはすすけた看板だったのが、一手間加えることで魅力的な作品になるという取り組みです。



結合する BABAラボ

「地域に開かれた場所を作る」を目的に近所のおばあちゃんやママたちが手芸ワークショップを実施。子育て世代の相談の場にもなっています。



テーブルワーク

自分ができるところをもっと面白くて、必要とされるものに!

ワーク1では、30枚の事例シートをグルーピングしていき、活動の楽しさや発想の転換方法を学びました。その後、グルーピングしたものに対して自分ができるところを掛け合わせることで、より面白い企画を考えました。ワーク2では、いままで考えたアイデアをふまえて、自分の身の回りにいる家族や友だちが困っているような課題を解決できる企画を考えました。



発表

グループ1



繋がる、食べる、役割、ハジけるの4つに分類しました。勉強することが好きなので子どもをはじめ、自分よりも目上の人にも知識を伝え、また教えてもらう関係ができればといった意見があがりました。

グループ2



食事を通じた多世代交流、知識の伝承、本気で遊ぶといった分類をしました。いろんな世代の人とジェネレーションギャップの共有をする話しをして、交流ができればといったアイデアができました。

グループ3



幸せや安心とはどういった状態なのかという視点で分類しました。子どもの送り迎えをしているが、父親同士の顔見知り少ないので、ポータルサイトがあれば見守り関係ができるといった意見ができました。

グループ4



生活支援か娯楽支援・オープンな場かクローズな場の4軸で分類しました。高齢者と子どもがもとのづくりを通じた交流の場をするや、SNSによる高齢者の観光支援といったアイデアがあがりました。

グループ5



明日からでもできるようなことや食事とコミュニケーションといった分類をしました。老人と一緒に外に出て、魚を釣ったり、その人の畑を手伝って採れたものをつまみに酒をのむといった意見があがりました。

グループ6



情報発信や学びのシェアができ、交流があればという分類になりました。ご飯を残さず食べれること、料理するのが好きといった意見があがり、シェアできる形が実現できればいいといったことができました。

参考

みなさんのアイデアをstudio-Lにてカテゴリとターゲット別に分類しました。今後できることを考える時の参考資料にしてください。

ワーク1 私ができる面白いこと

事例を整理し「①私ができること」と「②面白くなる要素」を抽出し、そこから「③私ができる面白いこと」を考えました。

カテゴリ	ターゲット	私ができる面白いこと
食		味くらべ、お腹を満たす(新味の開発・ランキング)
		料理を教わりながら、ご飯を食べる
		釣った魚or一緒に釣りに行った魚をつまみに酒を飲む
	自分	たくさん作りすぎた食事を残さず食べる
		みんなが作った食べ物(おかず)をなんでも、美味しそうに食べる
	地域	友人を誘って、地域住民が食事を通して交流できる
高浜とりめし王決定戦(一般の市民なら誰でもエントリー可)		
自宅を開放し、食を通じて地域の人たち(若者、子ども、高齢者)が交流できる場にする →地域の課題の共有、つながり作り		
学び	高齢者	高齢者の方と一緒に食事、色んなことを教えてもらい、そのお礼に力仕事を手伝う
		地域のお年寄りのおもしろ話を郷土食を食べながら聞く会をはじめる
		高齢者の家へ伺い、簡単な料理を作り一緒にお酒を飲む
健康		物語・説明文・エッセイの中に出てくる食べ物の紹介や作れる人によってもらえるよう頼む
		イラストを描いて、カードをつくり、プレゼントする
	子ども	勉強を教える。子どもだけじゃなくても、自分の知っていることを教える。食べる、スポーツ、とにかく楽しむ!
	一人暮らし	一人暮らしウォーキング(運動)一緒に飲む
子育て	子ども	近所の小さな子たちに、楽しく身体を動かすことを教える!(遊び感覚で)
		放課後、一緒に勉強したり、夕食を食べたりする(学童保育の延長的)
	父親	子育てに不安な父親に助言できる

カテゴリ	ターゲット	私ができる面白いこと
交流		絵本を読むことを通して幅広いコミュニケーションの場を作りだしていく。演劇を楽しむこと。
	子ども	自分が下の世代(小学生?)にダンスを教える→習い事の一環に
	高齢者	観光だけでない旅行のプランニング
	地域	地域の人だけでなく、高浜以外の人にも参加してもらえる→うまくいけば観光業につながる
		スカイプで世界の人とつながる 地元の良い所、好きな料理、普段していること(勉強や遊び)
		楽器演奏をたくさんの人とする
		「書道」から、「まちなか展覧会」なるものを開催。道路を貸し切りにして、書や絵画などを近隣に展示、市や食事可能なブースを設置し、地域交流を図る。
	多世代	子どもと親、近所の方々と楽しく共通する趣味が出来る
		子どもから大人までいる所で、一緒に参加して色々な人の話を楽しく聞いて遊ぶ
		子ども・高齢者の異世代まつり(企画学生)こども→遊び 高齢者→知識スキルの継承
地域交流会の開催、モノづくり体験を若い人から高齢者まで幅広い層で行う		
ジェネレーションギャップの共有。(中学時代の制服とか憧れのアイドルとか)		
遊び		大人がいる場所、子どもがいる場所それぞれの雰囲気があった歌をうたって盛り上げます
		歌を歌うことが好きな仲間(いろんな世代)を集めて、楽しい時間(食事をしながら)、空間(屋外)を創出する
		要塞や防護壁なんかを作って、フィールドつくって、混合戦を多チーム制でやる
交通支援	地域	白タク(みんなでみんなの足になる)
	障がい者	旅行の計画、車の運転
スキル支援		マッサージをする(感謝される!)
		ほんの少しだけ大きくなる ほんの少しだけ力になるかも
コーディネート		困っている人・団体への手伝いをする機会の創出
		何かと何かをつなげる企画

ワーク2 私が身近な人のためにできること

ワーク1で考えた自分ができる面白いことを、ワーク2では自分の身近な存在である家族や親などに対してできることとして、ブラッシュアップするかたちで考えました。

カテゴリ	ターゲット	私が身近な人のためにできること
食		広島風おこのみ焼きをつくり、なるべく大人数で飲む
	自分	つくってくれた人に対して、ごはんをすごくおいしそうにたべる!! 食事を残さず食べて、時々後片付けもする。
	家族	おばあちゃんちにご飯を食べに行く 母親に代わり、夜ご飯を作ってあげる。(ただし、仕事が早く終わった日に限る)
学び		絵本&小説などを読むこと
	家族	弟に勉強を教えてあげる! 子どもの勉強がちょっとたのしくなるグッズづくり
健康	自分	健康管理元気である ちゃんと病院に行きます
子育て	家族	いとこの子どもに逆上がりを教えてあげる!! 見守ること。手、口を出し過ぎないで、良い所をのばしてあげる
	子ども	休みの日に子どもに自転車の乗り方を教える
	父親	子育て支援。特に新米の父に対して!
	親	平日休みがメインの仕事なので、小学生や園児などの子どもの送迎やちょっとした買い物
情報発信		ワークショップなどの話し合いに参加を呼びかける 歌を歌うことの楽しさを伝えます こんな〇〇まるがいるよ!!あるよ!!(〇〇はヒト、物、情報、場)
	学生	学生が高浜市に関われるように巻き込む(情報発信、イベントに連れ出すなど)
	高齢者	おばあちゃんの絶品料理のレシピをSNSで公開する。アイドル化

カテゴリ	ターゲット	私が身近な人のためにできること	
交流		元気なあいさつで周りの人を元気に! 地域活動の際に「ありがとうございます」を必ず1回は言うこと みんなで集まって、何か楽しいこと(ゲーム、クイズ)とかをして、笑顔をつくること 誰もが集える場所を提供できます。家、部屋、台所など 一緒に旅に出よう	
	家族	集まれるときは、家族や友達と食事をして話し相手になる。近況を聞く。 普段迷惑かけっぱなしの母親を笑顔にさせる。 母と一緒に晩御飯を食べ、様子を見る。話を聞く。外食に行く。 1日1回は、家族全員と話す 祖母に電話する。自分の近況を話す。	
	友だち	友人たちと面白い、楽しいイベントに参加すること	
	高齢者	お年寄りの世間話にできるだけ付き合う。とりあえずおじいちゃん、おばあちゃんをお茶に誘う おばあさんの買い物につきあってあげる。	
	多世代	多世代交流の場を作るため将棋を教える	
	交通支援	親	休みの日ぐらい親の足になる(おこづかいありなら)
	スキル支援		マッサージをしてあげる 家(屋根)についてアドバイスできます
		家族	祖父にiPadの使い方を教える